

やまだ

心の中にいる「鬼」？

校長 青木 清美

節分に「鬼は外、福は内」と言っ、て、豆まきをしたご家庭もあることと思います。「鬼」は、物語や童話にも出てきます。想像上の「鬼」の顔は思い浮かびます。子どもたちに関して、次のような「鬼」は、よく目にしたり、耳にしたりします。

「忘れ物をする鬼」「すぐに怒ってしまう鬼」「なまけてしまう鬼」「ちょっといじわるをする鬼」「ゲームやり過ぎの鬼」「弟や妹を泣かしてしまう鬼」・・・。

これは、ほとんどが行動として表れるものですが、自分の心の中にある「鬼」が原因となっていると言っ、てよいと思います。

【心の中の「鬼」を、外に追い出す！ 表に出ないようにする！】

どうしても、上に述べたような「鬼」が表に出てしまうことがあります。

自分で、これらの「鬼」を追い出すことができれば一番よいですね。でも、それは簡単なことではありません。常に意識してこれらの「鬼」が、外に出てこないように、あるいは「鬼」が外に出てくる回数を減らすようにしていくことが大切です。

もし、このような「鬼」が出てこないようにお子さんが我慢できたら、保護者の皆様、ほめてください。この積み重ねが、心の中の「鬼」を減らすことになります。

「ちょっとだけいじわるをしたい」という心の中の「鬼」もいるかもしれません。でも、本当にいじわるをやってしまったらどうでしょうか？自分は「ちょっとだけ」であっても、相手はどう思うでしょうか？このような「鬼」は、ぜひ追い出してほしいものです。

心の中の「鬼」に関わっ、て、人間を不幸にする心の「鬼」というものがあることを、目にしたことがあります。例えば、

- 感謝することを忘れる。
 - 自分や自分の周りにいる人を大事にしない。
 - 自分の目標やめあてを忘れてしまう。
 - 他人にあたたかな対応ができない。等
- このようなことをやると、なかなか幸福になることはできないというものです。あくまでも一つの考え方だと思います。しかし、これを目にした時、一瞬「えっ」と思い、その後、「ああ、なるほど」と思いました。皆様はいかがでしょう。

6年生が卒業式までに登校する日数は、30日を割りました。今、5年生が中心になって、在校生が6年生に「卒業おめでとう」「今までありがとう」の気持ちを表すような「六年生を送る会」の準備を進めています。6年生は、卒業プロジェクトの取組を進めています。お互いに「感謝」の気持ちを行動で表すようにしましょう。

また、「めあて」をもって学習、生活、運動に取り組むように指導しています。

心の中は、「感謝」の気持ちや「よし、これをめあてにしてがんばるぞ」といったような気持ちで満たして過ごしてほしいものです。